

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（群馬県）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	自他を尊重し、望ましい人間関係を築く生徒の育成 ～子どもを主語にした学習活動の工夫を通じて～
----------	---

○調査研究のテーマを設定した目的

子どもを主語にした授業改善をさらに推進していくとともに、自分自身のよさを認めると同時に他の人のよさを認め、他者につながる力を高める教育活動を充実させることにより、自他を尊重し、望ましい人間関係を築くことのできる生徒を育成できると考え、本調査研究テーマを設定した。

○調査研究の概要

- ①子どもを主語にした授業改善を推進し、対話を目的・方法・対象の3ポイントに照らし合わせ、意識的に取り入れていくことで、他者につながる力を高め、望ましい人間関係を築こうとする態度を育成する。
- ②学校生活全般における常時活動や職場体験、伝統芸能等の地域との交流により、友達と協力したり、地域の方の思いを聞いたりすることで、他者につながる力を高め、望ましい人間関係を築こうとする態度を育成する。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

渋川市立赤城南中学校

○これまでの研究指定等の状況

—

○学級数

5学級（うち特別支援学級：1学級）

○児童生徒数

全校児童97名（令和6年12月1日現在）

○URL

<https://www.shibukawa.ed.jp/akagi-minami-j/>

○指定理由

赤城南中学校では、人権教育の目標を「人権に関する基礎的内容や生命を尊重することについて理解を深めるとともに、自分の大切さや他の人の大切さを認め合いながら、身近な人権問題を解決しようとする能力や態度を身に付ける」として人権教育の推進に取り組んでいる。令和5年度には、各活動に「自己理解」「自己受容」の内容を盛り込み、生徒が自分自身を大切に思い、自己有用感を高めることにより、他者を受け入れよりよい人間関係を築こうとする態度を育むことをねらいとした。小規模中学校の強みを生かし、生徒一人一人を大切に、自尊感情を高める学習活動の工夫を図っている。

そこで、本校を令和6年度の研究指定校とし、これまでの取組を踏まえ、より充実した実践研究を進め、その研究成果を広く普及していきたいと考えた。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

① 子供	◎
② 女性	
③ 高齢者	○
④ 障害者	
⑤ <u>同和問題</u>	
⑥ <u>アイヌの人々</u>	
⑦ <u>外国人</u>	○
⑧-1 HIV感染者等	
⑧-2 <u>ハンセン病患者等</u>	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	○
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	
⑭ その他（ ）	

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

①授業改善の推進

生徒が互いに伝え合い、学び合うことのできる授業の充実を図り、子どもを主語にした授業改善に取り組んだ。どの教科の学習においても、すべての子どもが自分の考えを「自分の言葉で語る」事実をつくることを大切にし、対話を目的（自分の考えを広げる、深める）・方法（意見交換・話し合い・協働）・対象（子ども同士・子どもと教員）の3ポイントに照らし合わせ、意識的に取り入れてきた。その際、他者の言葉を否定しない環境を教員が聞き方のモデルとなり率先してつくることで、他者とつながる力を高め、生徒同士の共感と協力を促進し、自他を尊重し、望ましい人間関係を築こうとする態度の育成に結び付けていった。

②体験活動の充実

人権教育を推進する上で体験活動の充実が不可欠である。本校では、菊づくりや伝統芸能教室等、地域文化や地域人材等から学ぶ機会を大切にし、故郷のよさを感じたり、高齢者とふれあったりする取組がある。これらの活動から、高齢者の思いを聞いたり、郷土愛を育んだりすることができる。また、職場体験学習においても地域の方と交流する中で、コミュニケーション能力を培ったり、地域の方を大切にしようとする態度を養ったりすることができる。生徒会活動においては、生徒会役員を中心として月1回の生徒朝礼で、生徒が企画・立案し、運営する取組を行っており、参加体験型の主体的な活動とコミュニケーションを大切にした実践的な学習を取り入れることで、自他を尊重し、望ましい人間関係を築こうとする態度の育成に結び付けていった。

③教育課程の見直し

子どもを主語とした学習活動とのつながりを意識して、各教科等の指導計画、人権教育全体計画、人権教育年間指導計画の見直しを行った。学習活動のどの部分が他者とつながる力を高めることに関連するのかを教師自身が再確認し、自分と向き合う力や他者とつながる力を高め、自分自身を受け入れ、他人にも同じ尊重を示すことで、自分の意見や感情を適切に表現し、友達の意見や感情を受け止められる望ましい人間関係の構築に結び付けていった。

○実施方法

本校では、校内研修において振り返り活動の際に達成感を味わえる授業づくりに取り組んできており、子どもを主語にした「学ぶ楽しさを実感できる授業づくり」は定着しつつある。すべての子どもが「自分の言葉で語る」事実をつくる手立てとして次のような取組を行った。【間接指導部会】

・「はばたく群馬の指導プランⅡ」（県教育委員会発行）を参考にした「主体的・対話的

で深い学び」の実現に向けた授業改善

- ・「どんな意見が出されても承認されて、受け入れられる」安心安全な教室の雰囲気づくり
- ・「考えたい」「表現したい」を引き出す、必然性のある学習課題の設定
- ・「意見交換」「話し合い」「協働」など多様な学習形態の設定
- ・「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用 ver.」（県教育委員会発行）を参考に、各教科等の目標の実現に迫るICT活用の促進
- ・対話活動の有効性に視点を置いた授業参観及び校内研修での成果や課題の共有
本校の大きな特色として、菊づくり、職場体験学習、伝統芸能教室等、地域文化や人材から学ぶ機会を大切にして、故郷のよさを感じる取組がある。これらの本校の伝統的な活動をさらに充実させた。また、人権集中学習や総合的な学習の時間・学級活動等に人権に関わる以下のような体験的な活動を行った。【間接指導部会】
- ・高齢者に関わる福祉体験活動を3年生の総合的な学習の時間に取り入れることで、相手のおかれている状況や思いを理解し、自他を尊重し、望ましい人間関係を築くことにつなげた。
- ・情報モラル学習を全学年の学級活動の時間に取り入れて行うことで、インターネット、SNSによる人権侵害について理解を深めた。
- ・外国人に関する人権問題の学習は、ALTを活用し、渋川市教育委員会が主催するSGCD（渋川グローバルコミュニケーションデー）や、教科としての英語、総合的な学習の時間に具体的な事例の紹介や体験を重視した活動を設定し、異文化理解や国際理解へとつなげた。

○検証・評価・改善・普及

①検証・評価・改善について

検証・評価にあたっては、本校で実施している「学校生活アンケート」を用い、人権に関わる質問への肯定的回答の数値変化を分析・評価することにした。以下の結果は、肯定的回答の割合と比較を示したものである。

**〈成果〉生徒アンケートより
友だちの思いや考えを尊重することができましたか。**
96.8% → 97.8% (+1%)



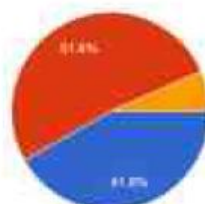
〈成果〉生徒アンケートより

自分や友だちのよさを見つけることができましたか。

91.4 %



93.4 % (+2%)

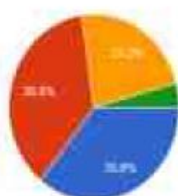


学校行事などを通して他学年との交流を広げることができましたか (交流する人が増えましたか)

72.6 %



82.5 % (+9.9%)



成果の1つ目は、より多くの生徒が、友だちの考えを尊重できるようになった点である。第1回アンケートでは、「友だちの考えを尊重できる」「やや尊重できる」と答えた生徒の割合が96.8%だったのに対して、第2回アンケートでは97.8%という結果だった。生徒たちが、話し合いの場において、「ファシリテーター」という役割を学び、実践することができたと考えられる。

2つ目は、より多くの生徒が自分や友だちのよさを見つけることができるようになった点である。第1回アンケートでは「自分や友だちのよさを見つけることができる」「ややできる」と答えた生徒の割合が91.4%だったのに対し、第2回アンケートでは93.4%という結果だった。生徒たちが、学校行事後の認め合い活動を継続することで、自分や友だちのよさに目を向けられるようになったと考えられる。3つ目は、他学年交流により、人間関係を広げることができるようになった点である。第1回アンケートでは、「他学年と交流を広げることができている」「ややできる」と答えた生徒の割合が72.6%だったのに対して、第2回アンケートでは82.5%という結果だった。「他学年交流」をキーワードに生徒会本部役員が実践した生徒朝礼や各委員会が実践した活動により、他学年同士が交流する機会や人間関係を広げようとする生徒が増えたと考えられる。

実践と検証を通じて2つの課題も明らかになった。1つ目は、自分の思いや考えを伝えることに対して難しさがあることだ。第1回、2回ともに「自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることができる」「ややできる」と答えた生徒は、どちらも7割程度だった。安心して思いや考えを伝えられる環境を大切にしながら、様々な教育活動をおこなって発言、発表する機会を意図的に設定していくことが重要であろう。

② 普及について

12月に開催された地区別人権教育研究協議会において、中部教育事務所管内の中学校を中心に他校・他校種・他地域への普及・啓発を図ることができた。また、人権教育究懇談会において、本研究に係る取組について情報発信を行った。

5. 人権教育にかかる年間計画

人権教育年間指導計画

渋川市立赤城南中学校

		4月	5月	6月	7月	(8)9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事等	委員会	生徒朝礼 挨拶運動	生徒朝礼	生徒朝礼 挨拶運動	学校保健委員会	合同体育大会 生徒朝礼	学習発表会 生徒朝礼	学校保健委員会	人権集中学習 生徒朝礼	生徒朝礼	生徒朝礼	予備会
	1年		高原学校					平和学習	人権講話			
	2年		職場体験学習					校外班別学習			立志式	
	3年		修学旅行			福祉体験学習				保育実習		
学年・学級指導 ○道徳 ●学級指導	1年	●学級づくり ○B-(6) ありがとうの力	○C-(11) いじめのない集団	○C-(10) よりよい社会のために	○C-(18) 世界平和のために	○C-(10) 自他の権利と法の遵守 ●SC授業「アイメッセージ」	○C-(18) 多文化の理解を深める	○B-(6) 社会の中の思いやり		○B-(9) お互いを認め合う		
	2年	●学級づくり ○B-(7) 礼儀	○C-(13) 勤労・働くということ	○C-(11) いじめと向き合う	○B-(8) 友情・信頼	○A-(1) 自主・自立・自由と責任	○A-(3) 個性の伸長	○A-(5) 真理の探究・創造	○C-(11) 公正・公平・社会正義	●SC授業「心のSOSの出し方」	○A-(2) 節度・節制	
	3年	●学級づくり ○C-(7) 礼儀	○C-(11) いじめを許さない心		○C-(11) 豊かな人権感覚	●SC授業 「自分を知ろう」	○B-(6) 本当の思いやり	○D-(9) 自他の生命の尊さ	○B-(9) 相手の気持ちを考える	○B-(6) 周りへの感謝	○D-(14) 家族の在り方	
教科等の指導	1年	保健：体づくり運動 (仲間との協力・安全)	国語：少年の主要学 年大会（相互理解） 理科：生物の世界 (相互理解)	国語：少年の主要校 内大会（相互理解）	社会：文明のおこり (身分の形成)					保健：柔道 (相手を尊重する心)	社会：河原者たちの 優れた技術（同和問題）	
	2年	保健：体づくり運動 (仲間との協力・安全)	国語：少年の主要 学年大会 (相互理解) 社会：差別された人々 (同和問題)	国語：少年の主要 校内大会 (相互理解)		技術家庭：情報の取り 扱い情報モラル 理科：生物の体の つくりとはたらき (相互理解)				保健：柔道 (相手を尊重する心)	社会： 身分制度の廃止 (同和問題)	
	3年	保健：体づくり運動 (仲間との協力・安全)	社会：広がる社会運 動（同和問題） 国語：少年の主要 学年大会 (相互理解)	社会：冷戦後の日本 (拉致被害) 国語：少年の主要 校内大会 (相互理解)	社会：多文化共生 (外国籍の人々) 理科：生命のつながり (相互理解) 英語Unit3 Lessons from Hiroshima	社会：基本的人権の 尊重（ハンセン病患 者・同和問題） 理科：自然界のつながり (相互理解)	社会：新しい人権 (インターネットによる 人権被害)			社会：労働者の権利 (女性)		
その他		「学校生活アンケート」(毎月1回) 生活記録ノート(毎日) 人権に関するアンケート(6・11月)										
職員等の研修及び取組		・人権目標、年間計画の検討・生徒等の課題検討	・学年会での検討	・授業検討	・人権作文 人権に関する絵画指導	・人権に関する各研修会・講演会への参加		・授業検討	・人権集中学習の取組・校長講話・講師講演・授業実践		・人権教育に関する取組のまとめ	・人権教育のまとめと今後の課題

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

